



嶋田久作さん

1955年4月24日、神奈川県横浜市に生まれる。大学卒業後、会社員やバンドのキーボード奏者、庭師などを経て劇団の旗揚げに参加し、俳優となる。

1988年映画「帝都物語」で映画初出演。以後、テレビドラマや映画など数多くの作品に、幅広い役で出演、現在に至る。

ブログ「猫可愛がり。だからダメなんだ」では、自身のことや愛猫の写真などを綴り、好評を得ている。

根無し草から根が生える

杉並に住んだのは、結婚したことがきっかけですかね。最初に住んだ家は、和泉三丁目、永福町の北口商店街を5分程行って、ちょっと中に入ったマンションでした。それから約20年、永福町や西永福など、この界隈を中心にして住んです。

僕は横浜で生まれたんですが、大学卒業後、一人暮らしを始めてからは様々な場所を転々として、根無し草のような生活をしてたんです。結婚して杉並に暮らすことで根が生えた、そんな感じです。

永福町を選んだのは、当時は撮影所が調布や生田、緑山にあったし、NHKの仕事で渋谷に行くことも多かったんで、そのどちらにもアクセスがいいからという理由だったような気がします。それでもうずっとですから、僕にとって住み心地がいい街なんですよ。



なみすけが好き

よく夫婦2人で散歩をするんですよ。今は西永福に住んでいるので、近くの神田川沿いを歩いたりしてね。そんな散歩の途中に、ポスターを見かけたのが、なみすけとの最初の出会いでしたね。確か3年前くらいだったと思

います。「なんだこれ？」って感じで、まずはうちの奥さんがはまって、続いて僕も。リアリティがある形でもないし、ふんわりと優しい感じがするんですよ、なみすけって。そんなところが、可愛くて気に入ってます。はまりすぎて、区役所になみすけグッズを買いに行きました。浜田山から阿佐ヶ谷まで「すぎまる」に乗りましたから（笑）。すぎまるの写真もちゃんと撮りました。あとは、なみすけのケーキも食べに行ったり……。なみすけパンも、もちろん発売日に買って食べました。うちには、なみすけほとんどのグッズがありますね。なみすけブログも必ずチェックしてます。

自分が生きているという実感がほしくて

最近、会う人からよく僕のブログについて、言われますね。皆さん本当によく読んでらっしゃって……。こういう役者の世界で生きているので、なんていいですか、普通の社会の中での僕自身が生きてるという実感が欲しいというか、そういう気持ちではじめました。本当に一個人として、不特定多数の人とコミュニケーションをとってみたいなど。たくさんの方々に読んでもらって、コメントをいただいたりして、とても嬉しく思っています。書く内容も、いただいたコメントに対する返事も、飾らない素直な自分で書いてます。

ただし、僕も以前にコンピューターの会社で働いていたこともあるので、ネット上の微妙な距離のとり方というのは、よく理解をしているので、その辺だけは気をつけるようにしています。あとは、写真を撮るのが好きなんです。デジカメはいつも持ち歩いていますね。地方のロケなんかは、必需品です。僕のブログは、撮影した写真の発表の場でもあります。なみすけのブログパーツですか？

それはもう、なみすけ愛からですね（笑）。

自分が自分らしくいられる場所

オフの日はよく散歩します。浜田山まで歩いたり、時には善福寺川緑地の方まで足をのばしたり……。目的もなく、カメラを片手に歩くこともありますね。僕はどうも空地というものに、なんだかそそられるようで、住宅街の中にポツカリと存在している空地の写真をよく撮影しましたね。最近はそのような空地が減ってるのが、残念だったりします。なんていうか、僕はグルグルできる街が好きなんです。あてもなく歩いているのに、気が付けば一周してたというような。ランドマークがあって、そこを中心にして発展している街よりも、味わいを感じます。それから最近は、近所の人たちとも交流ができてきて、いい出会いがあるのも嬉しいですね。今住んでいる家も、そういう出会いが縁になったんです。そんなところも含めて、僕がいちばん自分らしくいられる場所が、ここ杉並なんですよね。

表情がとても優しかったのが印象に残っている。

これからも様々な作品に出演していく嶋田さんの活躍が楽しみにになった。

—取材・執筆：霞 霧子、撮影：NPO 法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー（取材・2009年08月26日 掲載・2009年10月15日）—

取材を終えて

嶋田久作さんといえば、やはり映画「帝都物語」での加藤役のインパクトが大きい。その後も、ドラマや映画での悪役や個性的な役柄から、どこか近寄りがたい難しい人なのではというイメージがあった。



実際にお会いしてお話をしてみると、嶋田さんは

実にゆったりとした空気をまとった、おだやかな人だった。その空気は実に心地よく、時々取材を忘れてなごんでしまうほど。それは嶋田さんのブログから伝わる、自然体な人柄そのものだった。写真撮影の際に、なみすけを見つめる